

敷島小学校 学校関係者評価書

令和 6年2月16日(金)

敷島小学校学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和6年2月14日(水)午後1時20分～

会場：敷島小学校会議室

参加者：学校評議員

小田切 道之様 松土 仁郎様 田村 令子様

高橋 秀樹様(PTA代表を兼ねる)

学校側

校長 加藤 忍 教頭 武田 真弓

I 学校側から提案された内容

「令和5年度 敷島小学校自己評価書」について

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 成果と課題について

II 協議された主な内容

- 1 学校教育目標・学校経営について
- 2 学校運営について
- 3 学習指導について
- 4 生徒指導について
- 5 地域との連携について
- 6 学校の特色について
- 7 成果と課題について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

○学校経営方針に従って、様々な教育活動が行われていることがよく分かった。

学校に期待される役割が多岐に及び、教職員の苦労は計り知れないものがある。その中にあって、児童が楽しく意欲をもって学校生活を送っていることは教職員の努力と保護者・地域の協力による大きな成果である。

○変化の激しい時代の中で、学校教育の果たす役割は大きい。ICTの活用や外国語・道徳の指導など、児童に生きる力を付けるための取組を積極的に行ってほしい。しかし、教職員にゆとりがないとそれらを充実させることはできないので、過度な負担が生じないように配慮をしていく必要がある。

II 達成状況と改善策への意見

(1) 学校教育目標・学校経営について

- ・肯定的な回答が多く、教職員の意識の高さや行動力を感じた。
- ・PDCA サイクルを生かすことは重要であるが、振り返るゆとりがないとも受け取れる。成果は出ているので、先生方には自信を持って教育活動に取り組んでほしい。

(2) 学校運営について

- ・信頼関係の構築は職場の基本である。今後もよりよい関係を築いてほしい。
- ・口座振替が導入されたことは働き方改革になっている。児童と向き合う時間の確保と教職員の心身の健康に今後も取り組んでほしい。

(3) 学習指導について

- ・「先生がよく勉強を教えてくれる」「授業が楽しい」と回答している児童の多さは、学校にとって何より重要である。教員の授業に向かう姿勢に敬服する。
- ・ICTを授業に活用する効果は高いので、教員の指導力格差をなくし準備の時間を短縮するために、市の推進委員会を活用したりICT支援員を要請したりしてほしい。
- ・外国語の教科化によって児童の負担が大きくなったと感じる。ALTを活用して授業や評価の工夫を重ね、苦手意識を生まない指導を行ってほしい。

(4) 生徒指導について

- ・教職員の肯定的な回答率に加え、児童の規範意識の高さや真面目さは本校の落ち着いた教育環境の成果である。
- ・「相談できる先生がない」と回答した児童が少数ながらいる。関係づくりをするとともに、SCや児童委員を活用してほしい。キャリアパスポートを有効に活用してほしい。

(5) 地域との連携について

- ・コロナ禍の収束により、児童が地域の活動に参加している様子が伺えほほえましい。しかし、コロナ前に完全に戻すのではなく、必要なことに絞る線引きが大切である。
- ・様々な家庭環境がある現実を受け止めながら、これからも積極的な発信を続けていってほしい。

(6) 学校の特色について

- ・読書活動が盛んなのは本校の特色であり伝統とも言えるのではないか。
- ・社会の課題に触れる意味で今年度NIEに取り組んだことは効果的であった。新聞に触れる機会を確保し、読解力や表現力がつくよう努力してほしい。

III 今後の課題として意識されたいこと

○「人間性豊かな児童」の育成をめざす

人は人との関わりの中で成長していく。コミュニケーションを通じた相互理解や集団から生まれる感動体験が人を成長させてくれる。時代や文化が変わっても人間の基本は変わらないので、今後もそのことを念頭に教育活動を進めていく。

○「地域に開かれた教育課程」を推進していく

学校では、児童のすこやかな成長のため様々な教育活動が行われている。それらの取り組みについて情報を発信し、地域・保護者と連携して活動していくことが大切である。

※特記事項

来年度から学校運営協議会となる旨、説明と参考となる資料配付があった。

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小田切 道之

